

異文化市

ー 大横川親水公園沿いの外国人居住者と地域の共創拠点 ー

Keywords

市場 支援機関 外国人
大横川親水公園 錦糸町

DZ22660 福地 壮吾



1. はじめに

上京して一人暮らしを始めた際、多国籍な人々が行き交う活気ある都市の姿に魅力を感じる一方で、居住者同士の関係が希薄で、地域とのつながりを実感しにくい現実を目の当たりにした。この経験を通して、都市における他者との関係性や居場所の在り方について考えるようになった。

2. 研究背景と目的

2.1 研究背景

現代の都市部では、外国人居住者の増加が顕著となり、多様な言語・文化的背景をもつ人々が共存する社会が形成されつつある。しかし、そうした多文化的共存の状況においては、相互の関係性が希薄化し、地域社会としての一体感や安心感の欠如が課題となっている。そのような多様な居住者が共に暮らす都市における社会的つながりの再構築を目指すものである。

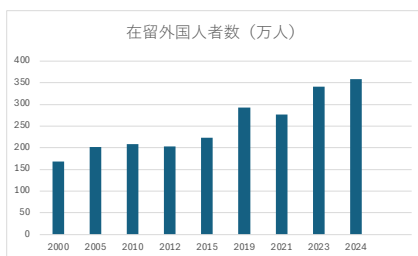


図1 外国人居住者の推移

2.2 研究目的

少子高齢化により生産年齢人口が減少し、労働力不足が深刻化している。経済を維持するためには外国人労働者の受け入れが不可欠であり、今後さらに多様な人々が働き暮らす社会が進むと考えられる。こうした状況の中で、外国人の雇用を支援し、地域とつなぐ施設の必要性が高まっている。

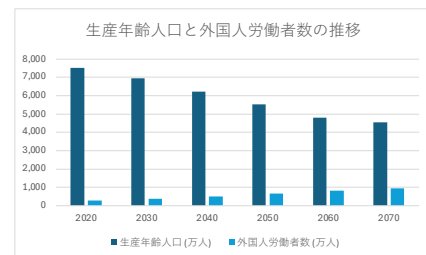


図2 生産年齢人口と外国人労働者数の推移

3. 選定理由

3.1 選定理由

東京都墨田区、錦糸町周辺を敷地として選定した。上京後、私自身がこの地で暮らすなかで感じたのは、人との関わりの少なさや地域におけるつながりの希薄さである。錦糸町周辺は外国人居住者や観光客が多く、多様な文化が共存している一方で、それぞれの集団が交わる機会は限られており、都市の多様性がそのまま分断を生む構造となっている。

また、再開発によって高層住宅や商業施設が進出する一方で、下町的な住環境も残されており、新旧・多国籍・多層的な都市構造が複雑に入り組んでいる。自身の生活実感と都市的な課題認識の両面から、錦糸町という場所に建築的な介入の可能性を見出し、本研究の敷地として設定した。

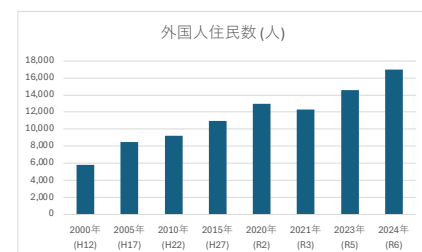


図3 墨田区の外国人推移

3.2 敷地概要

東京都墨田区に位置する大横川親水公園は、かつての運河を転用した全長約1.8kmの帯状公園で、水と緑が感じられる都市の貴重なオープンスペースである。特に錦糸町駅に近い北側エリアは、駅からのアクセスが良く、高

層住宅や商業施設、住宅地、オフィス、歓楽街が混在しており、多様な人々が行き交う場となっている。

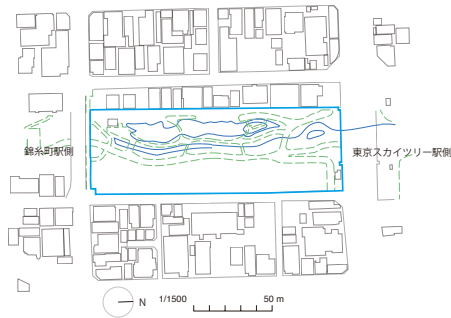


図5 敷地



写真1 敷地 歩行者専用道路 写真2 敷地中間地点

3.3 敷地分析

敷地周辺では、外国人居住者が全体の約7.7%を占めており、日本人居住者と比較しても一定の割合を占めている。町丁別に見ると、石原町一丁目では約6.0%、太平町一丁目では約8.5%、亀沢町四丁目では約7.1%、錦糸町一丁目では約11.9%となっており、特に錦糸町一丁目では高い比率となっている。これらの数値は、地域における多文化共存の状況を示すものであり、今後も外国人人口の増加が予測される。

表1 敷地周辺の外国人居住者状況

町丁	外国人人口	日本人人口	外国人割合
参考 墨田区	15,663	285,178	5.5%
石原町一丁目	174	2,856	6.0%
太平町一丁目	275	3,242	8.5%
亀沢町四丁目	206	3,630	7.1%
錦糸町一丁目	258	2,160	11.9%
計	913	11,888	7.7%

また、墨田区における労働状況をみると、日本人労働力人口は約128,934人で失業者は4,232人、失業率は約3.3%である。一方、外国人労働力人口は3,587人に対して失業者は202人で、失業率は約5.6%と日本人より高い水準となっている。このことは、働きたい意欲があるにもかかわらず就労の機会に恵まれない外国人が一定数存在することを示しており、敷地周辺においても外国人の雇用支援や就労機会の拡大が課題となっている。

表2 墨田区就労状況

	失業者数 / 労働人口 ×100	失業率
日本人	4,232 / 128,934	3.3%
外国人	202 / 3,587	5.6%

4. 計画概要

4.1 提案

敷地周辺の多文化共存や外国人労働者の就労課題を踏まえ、二つの機能を併せ持つ建築の提案を行う。第一に、外国人居住者が働き、地域住民や観光客と緩やかに交わり、にぎわいを共有できる「多文化市場」を設ける。第二に、特定技能の取得に必要な日本語試験や技能試験の学習を支援し、外国人労働者の就労機会を拡大する「支援機関」を併設することで、人材育成と地域交流を同時に実現することを目指す。

「多文化市場」は、資格がなくても従事できる販売や接客などの職種を通じて、外国人の雇用機会を創出する。ここで働くことにより、社会参加や実務経験の場を提供するとともに、実践的な日本語力やビジネスマナーを学ぶことができ、地域コミュニティの形成にもつながる。「支援機関」は、長期的な就労に必要な特定技能資格の取得を支援し、単純労働から専門職へのキャリアアップを促す。ここでの学びを通じて、日本社会で通用する働き方を習得するとともに、地域との交流やコミュニティ形成を促進することを目的とする。

4.2 設計概要

規模：およそ3,100㎡

用途：市場 支援機関

4.3 設計手法

現在、建物は主に道路側に開かれており、公園側への接続が限定的であるため、公園は行者専用道路や抜け道としての利用に留まっている。この状況は、公園の潜在的な活用機会を十分に引き出せていない。そこで、建物を道路側だけでなく公園側にも開くことで、公園に新たな使われ方を生み出す可能性がある。また、市場の機能は常設・仮設の両形態で存在しており、これを通じて多様な活動や交流の場として公園空間を活性化できる。

5. 参考文献

参考文献

- 1)都内区市町村別外国人の国籍別人口及び外国人のみの世帯数の推移について<https://x.gd/USLOy>
- 2)令和4年版 情報通信白書生産年齢人口の減少<https://x.gd/nTaHx>
- 3)在留資格別外国人労働者の推移<https://x.gd/tQaXd>
- 4)町丁別年齢別人口<https://x.gd/9pu2w>
- 5)政府統計の総合窓口<https://www.e-stat.go.jp>

01 提案

04-1

対象敷地周辺



常設市場



仮設市場

国人居住者が働き、近隣住民・観光客が
緩やかに交わりにぎわいを共有できる

『市場』



特定技能（日本語試験・技能試験）を学び
就労を支援し人材を育成する

『支援機関』

02 社会的役割

02-1

市場の良さ

- ・雇用機会の創出
- ・資格がなくても働ける職種がある（販売・接客など）
- ・社会参加や経験の場となる
- ・実践的な日本語力やビジネスマナーが学べる
- ・コミュニティ形成につながる
- ・人が自然と集う
- ・「おすすめは？」「どこから来たの？」といった自然な言葉のやりとりが生まれる
- ・外国人による出店や、異国料理の屋台などが出ることで、言語を超えた交流が可能

02-2

支援機関の良さ

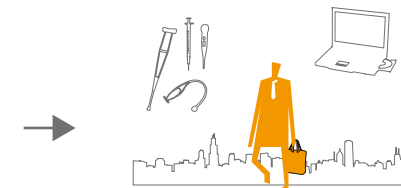
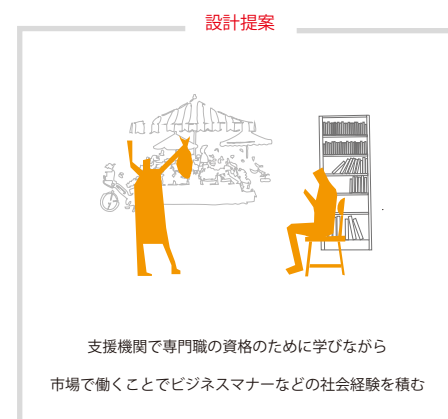
- ・長期的に働くには特定技能資格の取得が必要不可欠
- ・単純労働から専門職へのキャリアアップにつながる
- ・日本社会で通用する働き方を学べる
- ・コミュニティ形成につながる

02-3

施設利用の流れ



来日したばかりの外国人

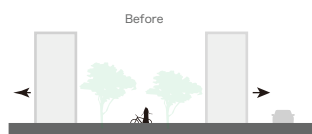


資格を取得し社会進出

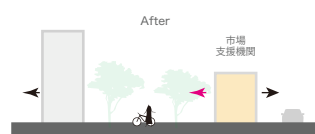
03 設計手法

03-1

公園側に開く



道路のある方向にしか建物は開かれていない
公園の機能が行者専用道路や抜け道のような使われ方のみでもったいない

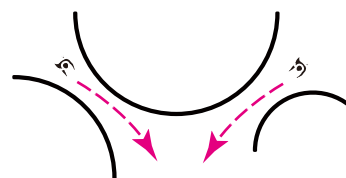


公園と道路の方向に建物を開く
公園の新たな使われ方が模索できる



03-2

意識させない誘導

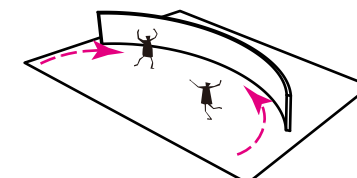


奥へと誘う
足を止めさせない
流動的な動線



03-3

賑わいを生み出す



流動的な動線によって
溜まり場を作り出し
賑わいをデザインする

